



プロバスだより

2012年4月12日発行

第197号

<http://www.tokyo-hachioji-probusclub.jp>

東京八王子プロバスクラブ

編集・発行：情報委員会

創立 1995年 10月 18日

創立 15年余、会員の努力で培ってきた叡智を、

2011～12年度テーマ

次のステージで躍進の糧としよう

第 197 回例会

日 時：平成 24 年 3 月 8 日(木) 12:30～14:30

場 所：八王子エルシィ

出席者：67名 欠席者3名 出席率 95.7%

(会員総数 70名 休会 0名)

1. 開会 有泉例会委員長の司会で開会



本日の資料の紹介と出席状況報告がありました。

2. 会食・ハッピーコイン披露

佐々木会長からハッピーコイン（後掲 13 件）の披露がありました。

3. 挨拶 佐々木会長



3月、4月、5月の例会日は、例会のあと生涯学習サロンが続くので長丁場となりますが、よろしく

お願いします。

2月23日の開講式は、雨天にもかかわらず多数の公募市民の参加を得て、済々と滞りなく挙行することができ、ご同慶の至りです。これは、当たり前のことといえばその通りですが、地域奉仕委員会を中心に会員一同が一致協力して、綿密周

到な準備を重ねたことの賜です。この緊張感を是非最後まで持続したいと思います。

泉三郎氏の特別講話「堂々たる日本人～今、岩倉使節団から何を学ぶべきか」は、期待通り素晴らしい内容でした。私自身、岩倉使節団の事績について知ってはおりましたが、今回改めて泉氏の何冊かの著書を通読し、また講話を伺って、廃藩置県後間もない明治4年に、政権中枢の右大臣岩倉、参議木戸、大蔵卿大久保、工部大輔伊藤らが長途の欧米視察を実行せざるを得なかった切迫感、関税自主権も認められないような弱小国を代表しながら、臆せず凛とした言動に終始し、訪問国のトップと対等に折衝したこと等に感動を覚えました。また、漢学の素養豊かな久米邦武が、詳細な「米欧回覧実記」を残したからこそ、現在でも使節団の全容が分かるわけで、記録の大切さが思い知らされます。これらの数々の先訓から、現代の日本が学ぶべきことは極めて多いと思います。

泉三郎氏は岩倉使節団に関する多数の著書を執筆されていますが、いずれも紀行文としても面白く、ぜひ一読をお勧めします。

さて、今日から、テーマごとのサロンが始まります。話し手はもちろん、司会者、会場係、記録係の方々も互いに連携しつつ、それぞれの役割を果たしてください。また、とくに役割を割り当てられていない会員も、公募会員を会場に誘導するなり、話し相手になるなりして頂きたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

4. バースデー報告・バースデーカード贈呈

会長より3月のバースデー報告と池田会員の作成したバースデーカードが各自に贈呈された(8名)。



5. 幹事報告 永井幹事

特にありません。

6. 委員会報告

(1) 例会委員会 有泉委員長

出席状況報告（前記のとおり）。

(2) 情報委員会 馬場委員長



「プロバスだより 196号」をお届けいたしました。今回は寺田会員が編集しました。荻島会員と根本会員の投稿

文を掲載しました。投稿文の在庫も少なくなりましたので、投稿をお願いします。また、「プロバスだより」編集における余白管理用の 250 字程度の「つぶやき」の投稿を、特にプロバスクラブの幹部を経験された方をお願いします。

(3) 研修委員会 岩島委員長



2年がかりで作成してきた派遣講師のリストを皆様に配布しました。昨年7月に配布したリストとの相違

点は次の通りです。

- ① 登録会員数が 35 名から 44 名に増加し、全会員の 6 割が登録しました。
- ② 一覧表「講師氏名と担当講義等の概要」を記載しました。

③ 会員の略歴、大括りテーマ、講演等の具体的な演題、及び講演歴を記載しました。

次の例会までに、登録者の追加、リストの修正等がありましたら研修委員に申し出て下さい。学習サロン、宇宙の学校に加えて講師派遣が第三の事業として発展することを期待しています。

(4) 地域奉仕委員会 田中委員長



2月23日の学習サロン開講式は無事終了しました。ご協力いただいた方々に感謝します。

サロンの登録状況ですが、一般サロン会員 91 名、プロバス会員 69 名で合計 160 名です。開講式の出席率は、あいにく天候が悪かったせいか申し込み者の 80%でした。

連絡事項が 4 件あります。

- ① 本日からサロンの第一週の講座が始まります。司会、会場係、記録係等の方はお役目をよろしくをお願いします。
- ② 窮屈な講義室が出てくる可能性があるかと思いますが、会場係りで工夫して下さい。特に、本日の A 講座は聴講者が多く、4 階の大部屋になりますので、一般会員の方のご案内をよろしくお願いします。
- ③ 開講式の泉講師の著書「堂々たる日本人～今、岩倉使節団から何を学ぶべきか」を受付で販売しています。
- ④ 野外サロンとさよならパーティのご案内書を配布し、申し込みを受け付けています。サロン会員の方にもご案内して下さい。

7. 「宇宙の学校」報告 下山運営本部長



「宇宙の学校」には協力して下さいった地域の団体がありますが、中でも桑志高等学校の校長先生が熱心で、

有志の生徒さん方も参加されました。先月、次年度を計画する事が必要になったと報告しましたが、次年度には桑志高校を会場として増やさないか、その際先生方や生徒さんの協力を惜しまない、との校長先生からのお申し出を頂きました。有力な案として、本部（今年と同じ会場）と桑志あわせて2つ開校する案がまとまりつつあります。これが1点。

また、ボランティア協力以外にも、金銭面も含めてのいろいろなご支援を頂いた団体や個人があります。これらの方々のために、「宇宙の学校」実施レポートを編集中です。実施のレポートをすることによって、より理解を深めてもらい、今後もご支援を続けて頂けるよう働きかけていくつもりです。出来上がったらもちろん皆さまに1番にお届け致します。

以上2点のみ報告して今月の報告とします。

8. 同好会報告

(1) ゴルフ同好会 米林会員



本年最初のコンペを5月24日にGMG八王子ゴルフ場で予定しています。その案内状を来月例会で配布します。

9. その他

(1) 立川会員



4年前、当クラブ内に男声コーラスクラブ「はにかみおじさん」を立ち上げ、内部イベントで活動してきました。

現在は、名称を「シニアダンディーズ」(SD)と改め、毎月2回練習をしています。昨秋には社会貢献をと思い、久野会員を通じてパンフレットを配布したところ、「シルバービレッジ日野」から声が掛かりました。

2月13日に、ソプラノ歌手の田中三佐代さんにも特別参加をして頂き、約1時間歌ってまいりました。

SDメンバーより少し先輩に当たる入居者の皆様からは大変喜んで頂き、7月にオープンする新施設「シルバービレッジ八王子」にも招かれました。また、5月の「生涯学習サロン」のさよならパーティーにも出演します。小さな社会貢献が出来たと喜んでいきます。

シニアダンディーズ初陣記(関連投稿) 浅川文夫

2月13日、集合時間30分前ごろから集まり始めました。やや緊張気味のメンバーは、コートと首元を覆っているマフラーをとると、黒いユニフォームと赤い蝶ネクタイを皆つけていました。会場で着替えるより、家を出るときにつけていた方がよほど安心なのでしょう。なにしろ外部での発表会は初めてなので、気持ちが高ぶってついつい話し声が大きくなっています。リハーサルが終わってもなかなか落ち着きません。畑野かん奈さんと田中三佐代さんが正装して堂々たる姿をあらわす。さすがプロの貫禄である。ああこれでシニアダンディーズも少しはさまになったかと思うと少し落ち着きました。



会場のシルバービレッジは、ハイレベルな施設です。当然お客さんは、高齢とはいえそれなりの人がお見えになります。唱歌や童謡ぐらいでは満足していただけないだろうと、選曲もそれなりに気張っているのですが、できばえが良いとはとても思えません。それでもみんなで歌いましょうとなって回りを見渡すと、大きな口をあけて一緒に歌ってくださる。なかには目を潤ませていらっしゃる方もおり、我々もここをせんと大声をあげ、みんなの気持ちがなごやかになりました。歌い終え

て何人かは、自然に客席に入って手を握り合い、絆を確かめていました。

帰るときには、朝のこわばった緊張感はなく、合唱のできばえなど気にならず、みんな満足したムードが漂っていました。八王子についてから、打ち上げ会で大いにもりあがり、それでもまだ足りずに、カラオケに繰り出し、夜遅くまで元気なダンディーズでした。

(2) 佐々木会長

「八王子学会」からのお誘いです。この会は大野会員が立ち上げた地域学の会ですが、ヤマトタケル東征の遺跡を探訪するバスツアーを企画しました。3月27日(火)8時に高尾駅に集合し、八王子—あきる野—青梅の遺跡を巡ります。会費は4,000円、入り口に申込書があります。ふるってご参加下さい。

(3) 山形会員



オリンパスホール八王子での歌の会をご紹介します。いずれもこの機会を逃したらとの思いで、パンフレットを配布させて頂きました。

ダーク・デューク・ボニー「コーラスの祭典」、いずれも我々年代のコーラスグループであり最後の競演になると思います。由紀さおり・安田祥子「ファイナルツアー～ありがとう25年～」、この姉妹は現在最後の全国ツアーをしており、その一環です。山口佳子「アイバンクチャリティコンサート」、山口佳子は八王子出身のソプラノ歌手、特別ゲストの青山貴は気鋭のオペラ歌手です。

10. 卓話

“めだかの学校”ちよいと体験” 八木啓充



富士森公園西の小高い丘の上の、通称「水道山」に400世帯ほどの「朝日が丘団地」があります。

6、7年前に歌好きの人たち7～8人に頼まれてコーラスグループ“めだかの学校”を立ち上げました。現在会員は24名ほどです。今日は、皆さんにその練習“合唱の楽しみ”をちよいと体験して頂きます。

まず「春の小川」を二部合唱で歌いましょう。この歌は4つの段落に分かれていて、①の段落“はるのおがわはさらさらゆくよ”を覚えると②③④はその繰り返しの音型になっていますので①をしっかり覚えれば、あとは簡単に歌えるはずです。それでは歌ってみましょう。

「春の小川」の作詞は高野辰之、作曲は岡野貞一で、二人のコンビで作られた歌には「ふるさと」「春が来た」「春の小川」「朧月夜」「紅葉」などがあります。高野辰之は長野県の現在の中野市に生まれました。中野市に「高野辰之記念館」があります。また、晩年別荘とした野沢温泉には「おぼろ月夜記念館」があります。岡野貞一は鳥取市で生まれ、熱心なクリスチャンでオルガンに優れ、40年間、本郷中央教会で毎日曜日には礼拝のオルガンを弾き、聖歌隊の指導をする誠実な人格者でした。高野、岡野ともに東京音楽学校（現東京芸術大学）の教授でした。

この「春の小川」はご存知のように作詞家 高野がかつて住んでいた東京代々木の河骨川（こうほねがわ）だといわれています。これには決定的な資料がないので、故郷の中野の小川と云う説もあります。この歌は大正元年に作られましたが、昭和17年口語体に改められ、更に昭和22年、1番の「咲いているね」を元の「咲けよ咲けよ」に改められました。さあ、立派な二部合唱に仕上がりましたので、次に「花の街」を二部合唱で歌いたいと思います。

「花の街」は作詞 江間章子、作曲 團伊玖磨で、昭和22年NHKの「婦人の時間」で流されました。この「花の街」はこの街か皆さんご存知ですか。江間章子は神戸の街を頭に描いてこの歌を作ったそうです。しかし、彼女はその時まで神戸には行ったことがなかったそうです。

「花の街」は私の幻想(げんそう)の街です。戦争が終わり、平和が訪れた地上は、瓦礫(がれき)の山と一面の焦土(しょうど)に覆(おお)われていました。その中に立った私は夢を描(えが)いたので

す。ハイビスカスなどの花が中空(なかぞら)に浮(う)かんでいる、平和という名から生まれた美しい花の街を。

詩の中にある「泣いていたよ 街の角で……」の部分は、戦争によってさまざまな苦しみや悲しみを味わった人々の姿を映したものです。この詩が曲となっていっそう私の幻想の世界は広がり、果てしなく未来へ続く「花の街」となりました(教育芸術社音楽教科書より)。

作曲者 團伊玖磨は日本を代表する大作曲家ですね。男爵 團伊能の子として東京に生まれ、東京音楽学校作曲科出身で、エッセイ「パイプのけむり」でもおなじみです。Wikipediaによれば、團は新字体による「団伊玖磨」という表記を激しく嫌っており、この表記による郵便物を一切開封せず捨てていたそうです。また、加山雄三が作曲するときに使った芸名「弾厚作」は團伊玖磨と山田耕筰に由来しているとも言われています。また、大のイヌ嫌いで、好きな動物はヘビ。自宅で飼育していた大蛇が息子の喉に咬みついて大怪我をさせたこともあるそうです(第一巻・パイプのけむり p.118~122)。

「花の街」は丁度一年を迎える「3.11」が早く復興を、と願ひ皆さんと心を合わせて歌いたいと選曲いたしました。(「YouTube」で「フォレスト・花の街」、「岸洋子/花の街」などをお楽しみ下さい。)

(卓話の途中で伴奏の CD プレーヤーが故障したので、急遽山形会員がハーモニカで伴奏しました—編集者—。)

11. プロバスソング斉唱

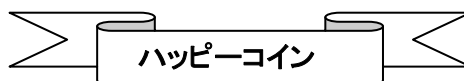
12. 閉会の挨拶 吉田副会長



後3日で、東日本大震災が起きて、一年が経とうとしています。震災発生直後、被災された方々の秩序ある行動が、外国の人々から称賛されましたが、一方、

最近では福島から避難した子供が、保育園の入園を断られたり、公園で遊ぶな等の嫌がらせを受けたとのニュースに接します。震災の光と影です。今回の震災を機に、クラブ活動の原点を見直し、これからの在り方に少しでも反映出来ればと考えます。

このあと、生涯学習サロンが始まります。お客様が、気持ちよく過ごせるようお迎え頂ければと思います。よろしくお願ひいたします。



◆ 77才のお誕生日は無事に迎えられました感謝々々。 大串延子

◆ 今月 79 才になり日本人男性の平均寿命に到着します。良かった！！というのも当クラブにいた高校の同窓生は皆鬼籍に入りました。がんばろぞ！！ 矢崎安弘

◆ 75 才の後期高齢者を迎えました。日本と台湾の交流茶会に参加し楽しく過ごしました。

阿部治子

◆ 戦火にも震災にも遭わないで後期高齢者になりました。高貴高齢者となれるよう努力したいもの。感謝をこめて。 市川昌平

◆ 入会して1年を迎えようとしております。毎回楽しい会に参加でき、皆様の温かさに触れ大々満足です。3月の誕生日を迎えるのも待ち遠しかったです。カードをいただくのが嬉しくて。

根本照代

◆ シニアダンディーズが初めて出前演奏をしました。出演者とお客様の年齢がどちらが上かと云う様でしたが、大成功。大変喜んで頂きました。ゲストの田中三佐代さんの歌にも感謝。日頃練習の指導とピアノ伴奏の畑野かん奈さんには大感謝。次回は7月にも出演の依頼を受けております。ささやかな社会貢献でした。 立川富美代

◆ プロバスクラブ PC に入会して5年目、毎日が楽しい日々を送っています。ハッピー。

荻島靖久

◆ やったー。ぼけない麻雀三連覇。こいつは春から縁起がよいわい。ということでハッピーコイン、チャリンチャリン。 東山 栄

◆ 中国の武漢・武隆・重慶へ行って来ました。世界遺産の天抗三橋と芙蓉洞そして三国志で有名な赤壁を観光しました。野口浩平

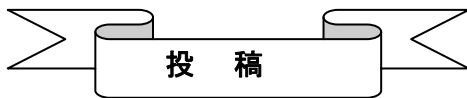
◆ 世界遺産のアンコールワットの見学ができましたので。内山雅之

◆ 大地の芽吹きを促す春の雪が降りました。その雪の消えた庭の隅に「露のとう」が顔を出していました。早速妻が三杯酢にしたものを酒のつまみに……。一足早い春の苦さを味わえました。「露のとう三つ四つ並ぶ狭庭かな」河合和郎

◆ 昨年6月9日、例会時の「ハッピーコイン」で申し上げた、仙台の〈混声合唱団「菘」〉のニューヨーク・カーネギホールでのライブ録音を入手、感動を新たにしました。今、例会でプログラムパンフレットを回覧させて頂きました。

山形忠顕

◆ 実は孫の大学受験の年でした。何とか浪人しなくて済みそうです。下山邦夫



“北欧を旅して”

川村 真



最近出不精になったせいか長い旅行をしていませんので、古い話ですが、3年前に妻と、一般的に北欧と言われているフィンランド、ノルウェー、スウェーデン、デンマークの4か国を旅行した思

い出の記憶を辿って書いてみました。

2008年6月8日、初夏の北欧へ出発しました。時差7時間、11時間30分のフライトでコペンハーゲンに、すこし待たされてヘルシンキ行きの飛行機に乗り換え、1時間40分後にまだ明るい午後10時過ぎにヘルシンキの空港に到着しました。

フィンランド共和国は約337,000平方キロメートル（日本の約80%）で国土の60%は森林、33%が北極圏内で、他は6,200もの湖沼と河川などとなっています。人口は524万人（2007年）で国土の8%が農地、農業人口は14%で食糧自給率は約70%と高く、林業は針葉樹林中心で欧州2

位、パルプ、木材が主な輸出品となっています。しかし、時代は変わって現在は先進工業国となり金属エンジニアリング、情報通信関係にも進出し成功を収めている福祉充実の国家であり、特に教育関係に熱心でその水準は世界トップと言われています。また、就業については全女性の80%が就職しているとのこと。

6月9日朝ヘルシンキの市内観光へと出発しました。市内で最も人気のある名所の一つとなっている自然の岩床を切り取って造られ、内壁は自然石で独特のムードと音響の良さを生かしたコンサート会場となっているテンペリアウキオ教会を見学しました。



テンペリアウキオ教会内部

作曲家ジャン・シベリウスが1945年80歳の誕生日を称えて命名されたシベリウス公園や、1952年レスリングの石井庄八選手が金メダルを手にした当時のままきれいに保存されている第15回ヘルシンキオリンピックのスタジオ等ヘルシンキの名所旧跡を見学し、かつてのフィンランドの首都として栄えた中世ムード漂う町トウルクトウの港から午後8時30分出港の6万tの「シリアライン」でバトル海を航行し、翌朝スウェーデンのストックホルム港に到着しました。

この国は欧州では4番目に広い国（日本の約1.2倍）で、国土の50%は自然のまま、農地は国土の7%程度にすぎませんが林業は欧州第1位であります。特にウラン鉱の埋蔵量は世界でも有数とのこと。特徴的なことは労働組合の組織率が80%と高く、まさに組合が政治を動かしているとのこと。労働者の給料の約50~60%が税金で、更に消費税は25%と高いですが、医療保険と国民年金の60%以上が企業側の負担となっているとのこと。

首都ストックホルムはメーラレン湖に浮かぶシティで14の島から成り、ノーベル賞の都として余りにも有名なところでもあります。朝、早速市内観光へと出発しました。王宮で衛兵の交代式を見学したあと、1923年に完成した赤レンガの優美な建物である市庁舎に向かいました。ここは12月10日のノーベル賞授賞式後の公式晩餐会の会場として知られているところです。

6月11日、空路でノルウェーのオスロに入りました。ノルウェーは日本よりやや広くフィヨルド、オーロラ、サーモンの国であります。首都オスロはフィヨルドの奥深くに築かれた町で世界的に美しい町のひとつと言われています。立憲君主国で議会の付属機関にノーベル平和賞委員会を置き、毎年この賞だけオスロで授賞式が行われ市庁舎はその会場としても知られています。主な産業は水産、北海の石油などで、特に漁業が盛んで捕鯨推進国でもあります。水力発電について現地のガイドさんが、北部グバルスンド海峡にブルーコンセプト発電所が設置され、何と潮力を活用していると説明してくれました。月による引力作用が力を生み、そこから電力を得ているとのこと。設備投資には多額の資金が必要とのことですが動力源は無料です。

212もの彫刻が配置されているフログネル公園、ムンクの作品が常設展示されている国立美術館、オスロの市庁舎など1日観光した翌日450Kmの移動日となりました。車窓から見る景色は様相が変わり山々には残雪が、シモランケ湖には氷が張っており、あれよあれよと見る間にみぞれが降ってきてとても初夏とは思えませんでした。バスは10時間走った後、今夜の宿泊地グイランゲルに着きました。



フィヨルド観光出発地グイランゲル

ここでアルコールのことを一言、ビールはホテ

ルで800円～1,000円(350ml缶)と税率の問題もあると思いますがいい値だと思いました。地元のお酒でジャガ芋を原料とした40度の蒸留酒アクアビットを飲んでみましたが、それほどのものではなく高いだけでした。

ノルウェーの観光と言えばフィヨルドクルーズもその一つで、数あるフィヨルドの内ガイランゲルフィヨルドと全長205km最深1,308mの世界最長最深のソグネフィをクルーズしました。また、ブリクスダール氷河、ボーヤ氷河にも立ち寄りましたが、共にやせ気味で尾切れの状態であり、これも地球温暖化の影響かなと寂しい思いをいたしました。車窓から溪谷、ショスの滝など景色が素晴らしいフロム鉄道からベルゲン鉄道に乗り次ぎ、ソグネエリアの観光が終わりました。

12～13世紀頃ノルウェーの首都だったベルゲンの一夜が明け、フロイエン山に長い行列の末ケーブルで登り、素晴らしい世界遺産ベルゲンの街とフィヨルドを一望した後、午後デンマークに向けフライトしました。



ベルゲンの街の眺望

デンマークはユトランド半島と443の群島からなり、面積は九州ぐらいで最高標高171mという特質の国土で酪農が盛んですが、北海油田がこの国の重要産業で石油需給率は100%を超すとのこと。午後コペンハーゲンの市内を観光しました。コペンハーゲンのシンボルとして世界的に有名な「人魚姫」像は過去に色々な事件がありました。首や腕が切り落とされたり、2003年9月11日には爆破されて海に胴体が投げ込まれることがありました。街の中をパレードがやってきました。デンマークの赤色に白十字の旗は世界最古の旗といわれ、デンマークの「旗の記念日」を祝うパレードとのこと。国民が歴史ある旗を

いかに大切なものとして扱っているかがよく分かりました。



旗の記念日パレード

いよいよ旅の最終日となりました。世界遺産のクロンボー城とフレデリスクポー城を見学して、カストラップ空港を離陸して帰国の途につきました。

10日間の北欧の旅はどうだったろうか。北欧4か国はそれぞれ特徴を持ち古い歴史と自然を保持しています。一方、自然の豊かさや社会福祉の充実さなどその共通性も多くあり、この旅で少しは4か国の文化や歴史、そして自然と調和して栄える街々に触れることが出来たことを喜びとし、この旅を締めくくりました。

“思いがけない高尾の雪景色” 有泉裕子

今冬は日本列島の北半分は豪雪、南半分は乾燥の日々であり、例年になく寒さの厳しい冬になりました。そんな日々のなか、1月23日の夜には天気予報のとおり夜半ものすごい降りの雪になり、暮れ以来乾燥に乾燥していた大地が、少し潤うことができほっとしました。友人と24日は、小仏→城山→高尾を歩く予定でいたのですが、あまりの降りにあきらめかけましたが、天気予報では朝方にはあがり、明朝は晴れの予報でしたので、朝天気だったら出かけようという約束をしてやすみました。

翌朝すっきり晴れになり、久しぶりの雪景色に歳に関係なくわくわくでした。雪に悩まされている北国の人たちには申し訳ないと思いますが……。JR高尾駅9時に待ち合わせでしたが、バスで来る方は市内が渋滞のため1時間遅れでした。10時の小仏行きのバスに乗車、終点に行くにつれて雪が深くなっていきました。

小仏峠登山口あたりは、木々の枝に積もった雪がとても綺麗でした。峠まではいつもより時間がかかりましたが、それほど大変ではなかったように思いました。城山の高尾方面側の先に、伐採されて広々とした所がありますが、一面真っ白で本当に綺麗でした。さえぎるものがないので、雪も木々のあるところより多く膝くらいまでありました。一面真っ白で何回か通っているところがまったく違って見えました。



紅葉台の展望台のところで休憩をして、ここからは下りが多いのと、いままでより入山者が多く、雪が踏み固められていて滑りやすいので、軽アイゼンをつけて、市内の展望ができる稲荷山コースを下りました。雪の高尾山、一度歩いてみたいと思っていましたが、本当に良いチャンスに恵まれ堪能できた一日でした。



編集後記：雪景色を掲載しましたが、桜の季節になりました。本年の開花は例年よりやや遅く、八王子での満開は4月10日頃とのことです。
石田文彦